



70才の挑戦

「富士スピードウェイ Eco Car Cupに参加して」

エフビーオートメ株式会社
代表取締役

平野 富義



S氏とM氏がこそそ話をしている。どうもカーレースに参加する話のようだ。やはり平野にも一応話をしなければということになったようだ。どうせ私に話をしても参加しないという返事が返ってくると考えたのであろう。よく話を聞いてみると富士スピードウェイで行われるハイブリッドカーだけのEco Car Cupに参加するという。当然平野からは参加しないという返事が返ってくると考え声を掛けたが是非参加したいという返事が返ってきたものだからさぞ驚いたことであろう、厄介なことになった。あんな年寄りに参加され足を引っ張られては楽しいはずのレースが楽しくなくなると悩んだに違いない。

私はプリウスが発売された当時、レンタカーで何度か乗ったことがあるものの、ここ10年ほどは縁遠かった。最初にこのEco Car Cupに参加したのは昨年だった。4月にショートコース、8月にメインコース、11月にまたショートコースと年3回のトライであった。レース当日の練習時、M氏がドライバーで私がナビ席に乗りカーブを二つ三つ通過したとき、フーとして失神しそうになった。かなりのスピードでカーブを通過するので身体にGがかかり気分が悪くなつた。もう今日はとてもレースどころではないと思ったがコースを1周した頃から気分が落ち着き慣れてきたせいか平常心に戻ってきた。そうなると走ることに興味が出てきてコースの走り方をM氏から真剣に教えてもらった。

いよいよレース開始となった。何としても、あの年寄りのために足を引っ張られたと言われないことだけに神経を費やした。いくつかのステージがあり、あるステージではグリッドスタートのグリッド位置を決定するためのレースがあり、M氏が一人で走りきり1位になった。次のステージでは当然グリッド1番からのスタートである。トップドライバーを誰にするかということになった。どういう訳か私がトップドライバーになった。これは大変、トップでスタートしたが何台も追い抜かれ最下位になって交代

したのでは何を言われるかわからない。そのことが頭から離れない。何としてもそのまま1位でバトンタッチしたいと考えた。そのためには絶対追い抜かれないという決意で走ることとした。必死で走った。カーブもそこそこのスピードで通過し見事トップをキープしてピットインし、セカンドドライバーにバトンタッチした。やれやれという気持ちであった。

メインの決勝2時間耐久レースではビデオ撮りをするから私にスーツとネクタイ姿で乗れという指示が総監督から出た。8月の一番暑い季節に、Eco Car Cup故、窓を閉め（レースの規定で）しかもエアコンを切っての走行、当然汗だくのドライブであった。しかも車内撮影のためダッシュボード右角にカメラを取り付けたために右フロントが見えにくく走りにくかった。全プログラムを終え表彰式にうつった。

秋に3回目のレースに参加したことは言うまでもない。今年も8月5日のレースに参加することになった。実は私は6月15日、日防設に来ていたとき心筋梗塞を患い医者の反対を振り切って大阪まで帰り即入院、CCUで1日、ICUで2日その後救急病棟、一般病棟へと移り2回のカテーテル手術を受け約1ヶ月強入院し7月



LEXUS450h

21日に退院できた。入院中もずっとEco Car Cupのことが気になり退院前主治医にEco Car Cupに出ても良いかと尋ねた。過酷な耐久レースでなかったら構わないとのことだった。退院からレースまで約2週間しかないが果たして走れるかがとても心配だった。会場で体調が悪い場合は出場しないことを仲間に了承してもらい参加した。前日の8月4日が練習日だった。

今回はN氏のLEXUS450hでの参加だった。N氏は福山からの参加だった。大阪まで彼が運転、大阪からは今回初参加のI氏と私が交代で運転することとした。病み上がりの私は少しであるが運転、問題は無さそうだ。結局ほとんどI氏が運転することと成了。I氏は学生時代ラリー競技をしていたこともありナビゲータの経験を活かし富士スピードウェイのコースをネットで攻略しつくしコースの攻め方を綿密に研究してくれた。そのお陰で随分助かった。



車一杯張り巡らしたシール

走行前、主催者側から指定された車の位置にコマーシャルシールを貼り付け、さらに日防設、RBSS制度、総合防犯士会、N氏社製品、その他のシールを、ところ狭しと張り巡らした。レース前、場内中継放送のためのアナウンサーがインタビューに来た。N氏と同郷でN氏と同じ名字だったことから随分打ち解けたインタビューになった。しかも彼の勤務地が浜松町の文化放送とのことで日防設のすぐ傍でもあった。今回の車はエンジンの排気量が大きいためガソリンの消費量の少なさを競う（一番得点が高い）のは、はなから諦めスピードを楽しむこととなった。お陰でスピードの順位は出場車56台中6位に入った。初参加のドライバー2人と70才のドライバーと3人にしては上出来である。また、このクラスの出場車両は我々の車1台だったので、クラス優勝も獲得した。表彰台に上了際、例のNアナウンサーが今日出

場のドライバーの中で70才以上のドライバーがいるか確認したところ私一人だった。故に私が最高齢のドライバーであることが証明された。インタビューで来年も最高齢を更新するために参りますと答え笑いを誘った。昨年S氏のプリウスEXP、今年はLEXUS450hと2年続けて出場でき大変楽しかった。

特に私は今年6月、大病を患い退院後2週間での出場となつたが完走できチームメイトに迷惑をかけることなく終えられたことが大変良かった。前日の練習時、何といっても我がチームで唯一の経験者である私がコースを走って見せることになった。昨年の経験を活かし、コースをそこそこのスピードで走って見せた。オーナーのN氏が気分が悪くなり乗り物酔いをしたようだ。I氏調査のデータ通りのタイムでカーブを通過する練習をドライバーチェンジしながら行った。その際、私の体調も問題なさそうなので当日レースに出場することとした。ただただチームメイトに迷惑をかけないことで必死だったが決して足を引っ張ることは無かったと思っている。

話は大きく変わるが私は防犯設備士制度が始まる前から事業に携わっている関係で、資格認定時の養成講習講師を第1回目から担当している。この養成講習もこの11月第80回目を数えた。この間一度も休まず連続で第80回まで続けてきたのは私一人になってしまった。この上は、あと20回、すなわち連続第100回まで講師を続けたいと考えている。そのためにも充分体調管理に努めEco Car Cup出場と講師活動を是非続けてていきたい。



左から I 氏、平野、N 氏